ことは出來ません。

四

それで魏は暫く別と致しまして、上に述べた北方種族の支那に入つて建てた朝廷は遼を始めとして皆それ〴〵自分の文字を作り、これを用ゐてその國語を寫し、また支那の書物に書いてあることを自分の國語に飜譯もして居つたのである、先にも述べた金の太宗時代には既に支那文明にかぶれるといふ事が甚だ自分の國家のために面白くないといふ事から、成るべく固有の風俗を持する方針をとり、且つ自分達が保つて行くだけではなく、支那人をも女眞の風に化せなければならぬと云ふ意氣込みであつた。それでその時支那人に對しても女眞の風俗に從つて辮髮をさせることにして居る、支那人にも辮髮をさせたと云ふことは無論清朝が始めではないのでありまして、金の時から既に漢人に對して自身の風に從つて辮髮をさせて居る、さうして胡服卽ち女眞の服を纏はしめて居る、斯う云ふやうに風俗を始めとして成るべく支那にかぶれないやうにと方針をとつて居る、それでは先程いつた所のいろ〳〵の文章の上手な支那人を搜し出して國書を書かしたのと矛盾するのではないかといふ疑が起つて來るわけでありますが、これは後に申上げたいと思ひますが、要するにそれは別の考へから出て來て居るのであつて、當時北支那には遼がまだ存立して居る時である、そこに滿洲から金の朝廷が起つた時であるから、遼に對しても、宋に對しても、支那文明は自分達も心得て居る、斯ういふ立派な文章も書くのだといふ態度を示して、自分の國の品位を保つ爲にさういふ方針を執つたのだらうと思ふ。かゝる方針をとつたにも拘はらず、太宗以後の時代になつて先に申上げた